

1 巨田神社(本殿・かくら)

文安5年(1448)の修造棟札(伊東祐賀)が残る本殿は、南九州には数少ない中世建築の遺構で、三間流造りの板葺きと木部の朱、軒間の緑が美しい配色を見せています。この本殿と22枚の棟札が国の重要文化財に指定され、左右の若宮社・今宮社も一間社見世棚造りで、県の文化財に指定されました。巨田かぐらは慶長年間(1600)に舞われていたようです。秋の大祭には33番が奉納されます。本殿は昭和53年国指定文化財



2 越網猟(こえあみりょう)

巨田の大池とそれを囲む丘陵地は400年前から鴨越網の猟場として受け継がれました。現在、石川県片野と巨田のみに残る貴重な古式狩猟地です。

3 佐野原聖地(さのばるせいち)

鷓鴣草葦不合尊(うがやふきあげずのみこと)の宮殿跡で、神武天皇をはじめ4柱の皇子がお生まれになった所と伝えられています。伊東氏が神社を創建し、神社の傍に具せん閣というお茶屋(休憩所)が設けられました。昭和9年に宮崎県知事一行が視察しました。昭和32年に保存会が結成され、佐野原神社が再建されました。

4 高月院

慶長17年(1612)建立の浄土宗寺院です。佐土原初代藩主以久公を始めとする歴代島津家の墓地があります。阿弥陀如来座像は9代藩主忠徹(ただゆき)正室隋真院が寄進しました。境内に京都大雲院から持ち帰った「豊烈曜後之碑(ほうれつようごのひ)」・「招魂の碑」は戊辰(ぼしん)戦争時の佐土原藩の動きを知る貴重な資料です。



5 天昌寺跡

前島津豊久公の菩提寺です。天正7年(1579)今までの城主伊東氏にかわって、島津家久が城主となりました。この地を基地として島津の勢力を全九州に広げました。天正15年に急病で死亡しました。その子 豊久が18歳で継ぎました。慶長5年(1600) 関ヶ原の戦いで叔父の島津義弘の身替りで戦死しました。父家久公・豊久公と妻・家久公母の順で墓があります。

6 鶴松館(かくしょうかん・佐土原歴史資料館)

佐土原城跡は鶴松山の山上に築かれた山城と山下に築いた平城の構えを備えています。田島の築城に始まり、伊東、島津の各領主の根城になりました。この地は自然の地形を利用した中世の典型的な山城で、伊東義祐の頃、難攻不落の城として整備され、日向国48城の要となりました。南九州では例の見ない天守台を備え、金箔鯉瓦(きんぱくしゃちかわら)や桐紋瓦が発見されました。戊辰戦争の時、使用された錦の御旗があります。一方、200年前からの佐土原人形が展示されています。その中に歌舞伎を表現した貴重な人形があります。佐土原城跡は平成16年国指定文化財

7 佐土原地区交流センター

佐土原中学校区に建設された宮崎市で6番目の地区交流センターです。200人規模の集会やレクリエーション、スポーツが可能な多目的ホールを備えたほか、遊戯室や高齢者ふれあい室の機能を複合した生涯学習およびまちづくり活動の拠点施設となります。

佐土原いろは館(宮崎市 城の駅)

城の駅の建物内には、観光・歴史・文化などの情報を発信する「情報提供」、ゆっくりくつろげる「飲食スペース」、食品や土産物を販売する「特産品等販売」の3つのコーナーを設けています。

8 憩梅庵薬師之跡(こばいあんやくしのあと)

伊集院家の護り仏薬師如来、30cm程の釈迦立像と台座、光背を含めて1m程の虚空蔵菩薩(こくぞうぼさつ)を納めたお堂が憩梅庵の名残りを残しています。

9 日講遺跡

日蓮宗不受不施派の日講は江戸幕府の政策に従わないため、佐土原に流罪になった。4代忠高は藩士や僧との交流を許したので佐土原藩に文教の気運を高めることとなりました。また、藩政改革にも影響を与えました。



10 佐土原人形製作所

400年前にはじまる土人形造りを継承しながら、現代に即した工夫をしている老舗です。今、6代目店主で饅頭喰いなどの品をたくさん揃えています。



11 金柏寺釈迦堂

伊東義祐が建立した菩提寺といわれます。建物は旧地区公民館跡にありましたが、西南の役で焼失しました。その時、木喰上人作の釈迦仏(寛政9年1797)は上半身を残して取り出すことができました。



12 石敢燈(せっかんとう)

旧藩時代T字型に交差する道路の突き当たりは魔物のたまり場と恐れられ、「魔よけ」の石敢燈が建立されました。



13 商家資料館(旧阪本家)

阪本家は江戸から続いた味噌・醤油製造を営む旧商家で、現在の建物は隆盛を極めた明治38年に建てられ、二列通り庭造りの土間・庭の典型的な町屋造りです。普通の町屋は間口三間の奥に長い形をしているが、阪本商家は周囲三軒程を購入したものと思われ、入母屋造りです。平成12年(2000)に佐土原町文化財として補修、翌年商家資料館として開館しました。

14 八坂神社

祇園さまと尊敬され商人の神様として盛大な祭りがありました。昔、月宮池があり、跡地に神社が建てられました。

15 木村長門守重成の石像

8代藩主島津忠持(ただもち)の調査結果で八日町の地が誕生地といわれています。木村重成は豊臣秀頼の小姓・家臣でしたが大坂夏の陣で戦死しました。昭和31年5月歴史同好の有志で石像が造られました。

16 安宮寺跡

野田泉光院日本九峯修行供養塔
野田泉光院は安宮寺の住職でした。文化8年(1811)56歳の時、全国の山伏寺を視察し、旅した記録を日記にしました。「日本九峯修行日記」は庶民の生活資料として高く評価されています。泉光院の墓は宝塔山公園内にあります。



17 大光禅寺

臨済宗 佐土原で最も著名な田島氏ゆかりの寺。建武2年(1335)、第4代田島祐聡が檀那(だんな)となり岳翁長甫(がくおうちょうほ)が開山。国指定文化財の木造騎獅文殊菩薩(もくぞうきしもんじゅぼさつ)及び脇侍付天蓋一面及び木造騎獅文殊菩薩乾峯土曇墨蹟をはじめ木造地藏菩薩、42代和尚古月禅師分骨塔など文化財が多数あります。その他、山門、戒壇石、自国寶殿、5代6代の藩主墓、田島氏五輪の塔など見どころが沢山あります。



19 安宮大明神

伝説 安姫は田島領主伊東休祐の一人娘で猿樂の役者と恋に落ちました。恋を裂くことができず殺されました。安宮寺を建て安宮大明神として供養しました。

20 弓削筑前の墓

弓削家は太光寺に宝塔山一帯を寄進した商人です。船で大阪と交易していたようです。

21 宝塔山公園

東に太平洋、西に九州山脈、南に愛宕神社と日講遺跡、尾鈴山をおおぎ、眼下に佐土原市街を見る絶好のビューポイントです。園内には野田泉光院の墓があります。また、昔から桜の名所として親しまれており、近年は特に「みどりの桜」で有名です。上まで車で行くことができます。備考 宝塔山公園さくらまつり 3月4週日曜

22 愛宕神社

養老2年(718)に丹波国桑田郡の愛宕神社(京都府亀岡市)の分霊を祀ったのが創建と伝えられています。火難から守ってくれる火の神様で、商人町には大切な神様です。7月3週の、土、日に開催される夏祭りは「愛宕さま」と呼ばれ、「いろは口説きのおどり、ダンジリけんか」で有名です。11月23日、24日は秋祭り、火のまつりがあります。

23 自得寺跡 御牧赤報(みまきせきほう)の墓

御牧赤報は9代藩主島津忠徹(ただゆき)が藩士の儒学指南(1823)を依頼しました。佐土原藩学の祖として幾多の人材を養成しました。ここは古月禅師の庵があったところです。第一曾小川家の墓は御牧赤報の墓の左側に広がる10基余りの墓群がそれです。7代藩主久柄(ひさもと)の弟久謙(ひさひつ)が新しい家を興し当主になった家です。久謙が家老の頃は天明の飢饉(ききん)で藩は財政に苦しみ、宗家から財政援助を仰ぎました。

24 吉祥寺・鬼子母神(きしもじん)

慶長8年(1603)、種子島慈恩寺の寶正院日種法印を開山として創建されました。本尊は十界勧請曼荼羅(じゅうかいかんじょうまんだら)、佐土原、鬼子母神の別称があります。鬼子母神はインドでは子授け・安産・子育ての神として知られ日蓮宗では法華信奉者の守護神とされています。旧暦正月に開催される祭礼は「鬼子母神さま」とよばれ昔からたいへんな賑わいをみせています。



25 阿佐加利神社

祭神は彦火火出見命(ヒコホホデノミコト)です。佐賀利は「阿佐加利也、上古神武天皇の麻を刈り給う」の略言といわれています。

26 古月禅師誕生地

禅師は寛文7年(1667)9月12日佐賀利のこの地に生まれました。佐賀利瑞光院宗密和尚について学び、その後松巖寺一道和尚に弟子入り、10歳で禅宗の仏門に入った。後、5代藩主惟久(これひさ)の命により大光寺42世住職となりました。禅師の人生訓を歌いこんだ盆踊り唄「いろは口説」は有名です。



27 曾我殿の墓(そがどんのはか)

中央五輪は虎御前、両側は五郎、十郎の墓と地域では言い伝えられています。初めて田島に下り領主となった伊東祐明以下の田島伊東家の墓群(だれのものか不明)といわれているが、曾我殿の墓として貴重な石塔群です。